

科学研究費補助金(基盤研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充」主催
長野教育文化振興会協力

2013年度秋期【新・古典を読む-歴史と文学-】

第3回 『日本霊異記』の史実・異伝 - 古代人の心性 -

開講日時：11/9 (土) 午後2:30～4:30

講義会場：金鵒会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：学校法人 立命館 総長特別補佐
立命館大学 文学部 人文学科日本史学専攻 教授
本郷 真紹(ほんごう まさつぐ)先生

概要： 平安時代の初期に薬師寺の僧・景戒が著した、日本最古の説話集である『日本霊異記』には、古代史上の実在の人物とその事跡について、独自の伝承が多く見受けられる。

説話という性格から、全てを史実を伝えるものとして受け止めることは憚られるが、その中には、『日本書紀』や『続日本紀』といった国史には伝えられない、興味深い内容も含まれている。

今回は、推古天皇・聖徳太子・聖武天皇・行基といった、著名な人物に纏わる伝承を取り上げ、そこに窺われる意義を考察することにした。